

イベント開催報告

- ・ 関西・大阪文化力会議の開催
- ・ 日時：2013年9月11日 会場：大阪国際会議場
- ・ 参加者：述べ1,400名

大阪国際フォーラムでは、ハーバード大学のエズラ・ヴォーゲル名誉教授を迎えて、(公財)関西・大阪21世紀協会と共催で「文化はアジアの平和に貢献するのか」をテーマに関西・大阪文化力会議を開催しました。

○基調講演では

ヴォーゲル名誉教授が、「鄧小平の描いた発展戦略は成功したのか」と題して講演。現代中国の父と呼ばれている鄧小平の人生を辿りながら、その近代化や開放政策、外交について語られました。また、最近の日中関係の悪化は、中国の愛国教育や経済発展に要因があると語られ、中国は戦後の日本をもっと理解すべきとも語られました。

○鼎談では、

ヴォーゲル名誉教授に防衛大学校長の国分良成氏、大阪国際フォーラム会長(当時会長代行)の萩尾千里氏が聞くという形で進められました。

今後中国はどのような道を辿るのか、その中国に対して日本はどう向き合っていくべきか、そしてアジア太平洋地域の安定に向けて、日米は今後何をすべきかについて話し合われました。

○パネルディスカッションには、

落語家の桂文枝氏、前文化庁長官の近藤誠一氏、東京大学大学院情報学環教授の園田茂人氏、同志社大学長の村田晃嗣氏が登壇、防衛大学校長の国分良成氏のコーディネートにより、「日本を含むアジアがどう変わりつつあるか」「日本が抱えている課題や発揮できる力はなにか」「関西・大阪が海洋国家日本の将来のためにどんな役割を担っていくのか」について、時にはユーモア交えながら話し合われました。

なお、会議の詳細については、詳細な報告書を作成しておりますので、ご入り用のかたは大阪国際フォーラム事務局までお問い合わせください。

(報告書には数の限りがありますのでご了承ください)

